「バベルの塔」：語学の勉強の苦労はここから始まった

2002 年 10 月 4 日
I.Nishida
(Richmond E.S.)

長年、英語の勉強をしていても思ったほど進歩せず、己の頭の悪さにほとほとあきれている昨今です。そこで思うのですが、一体全体、神様は、なぜ我々人類にかくも異なる多くの言葉をお与えになったのでしょうか。地球上の人類は、髪の毛や肌の色に多少の差異はあるにしても、基本的には同数の染色体数を持ったホモサピエンスとよばれるハラカラです。なのに、ほんの少し肌合いが違ったり、紅毛碧眼の人とコミュニケーションするためにはずいぶんと長い時間をかけて相手の言葉を勉強しなければなりません。

ということで、今回は、何故、神様はこのような沢山の言葉をわざわざお作りになったのかというお話を取り上げてみました。

（なお参考までに、言語学者によりますと、この地球上には（分類にも拠りますが）3000 から 6000 もの言語（フランス・アカデミーによると 2796 言語）があるそうです。）

なお、今回は、あくまでもお話としての「言語の起源」の紹介です。小生はキリスト教の原理や教義についてまったく門外漢であります。もし以下の内容に誤りがあればヒラにお許しください。

ヨーロッパにおいて中世までは、人々は、言語は神様がお創りになったという「言語神授説」を信じていました。これは、そのことが旧約聖書の「創世記 11」にかかれているためです。

その概要を記しますと、

『昔、人々は同じ一つの言葉を話し暮らしをしていました。ノアの洪水の後、人々が東方に移住していくとき、Shinar（バビロンのこと）というところで肥沃な土地を見つけそこに定住を始めました。そこでもうこれからは移住しなくても良いようにその地に都市の建設を始めるとともに、レンガを焼いて天にまで届くような塔（バベルの塔）を建てようとしました。ところがこれが神様（ヤホバ）の、「人間というものはほって置けば何をしでかすかわからない。傲慢者め。」という怒りに触れました。そこで神様は、「彼らは一つの

民で、皆一つの言葉を話しているから寄り集まって、このような不遜、傲慢なことをし始めたのだ」とお考えになり、 彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられないようにされました。 それとともに、人々を地上のあちらこちらに追い立てておしまいになりました。』

これが「バベルの塔」といわれる有名な創世記に書かれているお話です。今でも、その塔のものと思われる遺跡がメソポタミア文明の発祥地であるイラク国内のバビロンに残っているそうです。

なお、文章も短く平易ですので英語版聖書(1984 年改定版)の「創世記（Genesis）11」を参考までに原文で上げておきます。

Now all the earth continued to be of one language and of one set of words. And it came about that in their journeying eastward they eventually discovered a valley plain in the land of Shinar, and they took up dwelling there. And they began to say, each one to the other: “Come on! Let us make bricks and bake them with a burning process.” So brick served as stone for them, but bitumen(アスファルト) served as mortar for them. They now said: “Come on! Let us build ourselves a city and also a tower with its top in the heavens, and let us make a celebrated name for ourselves, for fear we may be scattered over all the surface of the earth.”

And Jehovah proceeded to go down to see the city and the tower that sons of men had built. After that Jehovah said: “Look! They are one people and there is one language for them, and this is what they start to do. Why, now there is nothing that they may have in mind to do that will be unattainable for them. Come now! Let us go down and there confuse their language that they may not listen to one another’s language.”

Accordingly Jehovah scattered them from there all the surface of the earth, and they gradually left off building the city. That is why its name was called Babel, because there Jehovah had confused the language of all the earth, and Jehovah has scattered them from there all the surface of the earth.

以上が、ヨーロッパの人々が中世まで信じていた諸言語発生の起源説です。キリスト教世界ではこのようになっていますが、もし皆様の中で、古代インド

哲学や、仏教世界、東洋哲学、さらに広げてわが日本の古代神話の中で、旧約聖書・創世記の「バベルの塔」に相当するような言語発生起源の説話・伝説があるのをご存知でしたらぜひ教えていただきたくお願いします。

冒頭、地球上には3000から6000の言語があると述べました。しかし、現在、消滅する言語が急速に増えていると言われています。特に、文字を持たない言語（わが日本列島のアイヌ語も、アイヌ語だけで生活している人々はもうおられず、一部の人々の努力によってかろうじて消滅をまぬがれているのが現状でしよう)、や少数民族の言葉が急速になくなりつつあります。これは、近代になってアングロサクソン系の人々の科学技術や経済社会活動が全地球的に広がりを持ち始めたことと密接な関連があると思われます。なかんずく、彼らの言葉である「英語」の急激な流布、国際化が少数民族の言葉の消滅に拍車をかけているものとみられれます。どんな少数民族の言葉といえ、それが立派に人々の間でコミュニケーションとして機能する言語ならば、それは長い時間にわたって創りだされた人類の高度な文化の産物す。もし、「英語」が益々この地球を我が物顔に席巻し、他の言語を抹殺するようなことになったときには、神様は、バビロンの人々に課されたように、「英語よ、おごるなかれ！」とばかりに再度、現代人類に鉄槌を下されるかもしれませんね。

以上